

国際交流基金助成事業報告書

薬学研究科 薬学専攻
博士課程 4年 北廣 優実

1. はじめに

本学国際交流基金の助成を受け、2019年7月11日から17日にかけてアメリカに渡り、アメリカ生薬学会で研究発表を行いました。学会の様子を中心に、報告致します。

2. 渡航先 アメリカ合衆国 ウィスコンシン州

ウィスコンシン州はアメリカの中西部に位置します(図1)。私は日本からシカゴ経由でウィスコンシン州へ行きました。この地域は農業や酪農が盛んですが、滞在中の移動で中心街を外れた際には壮大な農業地を目の当たりにし、アメリカの規模の大きさを実感しました。今回参加した学会は、州都であるマディソンにある Monona Terrace というコンベンションセンターで開催されました。



図 1 ウィスコンシン州の位置

3. 学会 The American Society of Pharmacognosy Annual Meeting

アメリカ生薬学会年会は今年で60回目の開催でした。学会は口頭発表とポスター発表に分かれており、口頭発表はメインホールで行われました(写真1)。口頭発表はサプリメントや食物繊維、腸内細菌などに関する演題が多く、日本の生薬学会とは異なる印象を持ちました。ランチセッションは“Breaking the Bias Habit”という題目で、性別や国籍などによる潜在的な思い込みに関する内容でした。講演中は聴講者同士が意見交換する場面も度々みられ、非常に活気のある講演でした(写真2)。



写真1 学会会内



写真2 ランチセッションの様子

4. 研究発表

私はポスターセッションで研究発表を行いました（写真3）。発表時間中は複数の先生に興味を示していただき、たどたどしい英語による発表にも関わらず温かく耳を傾けてくださいました。私は生薬・麦門冬に関する研究について発表しましたが、先生の中には漢方に馴染みのない先生もおられ、その場合は漢方薬とは何かということを初めに説明する必要があります。日本の学会で発表する際には前提にして説明できていたことも国際学会ではそうではない場合があります、説明する内容や順序など、工夫する必要があったと気づきました。

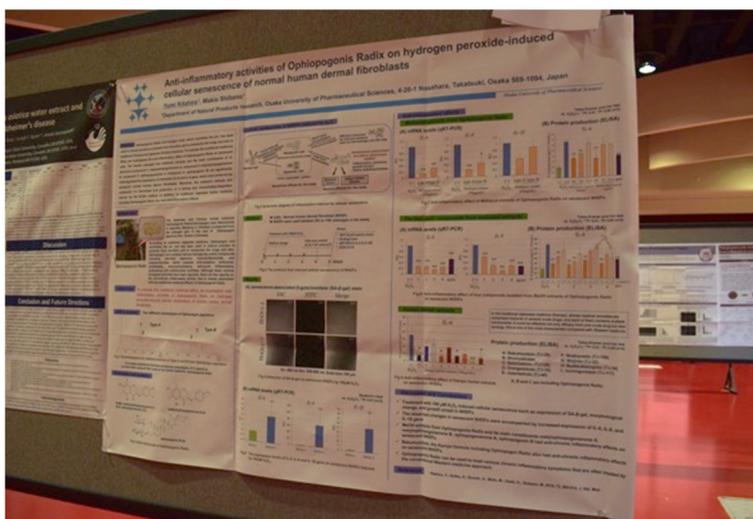


写真3 発表ポスター

5. 学会会場周辺の観光



写真4

州議会議事堂（左）とその内部（右）

学会会場の近くには州議会議事堂があり、学会の合間に堂内を見学しました（写真4）。週末には学会会場と州議会議事堂までの大通りでハンドメイドフェスティバルが開催されており、様々なお店を見ながら現地の週末の雰囲気を楽しむことができました（写真5）。

また、滞在中は日の入りが遅く20時頃まで明るかったため、学会終了後は会場の近くにあるウィスコンシン大学を見学することができました（写真6）。大学のキャンパス内はとても広く、まるで一つの町のような感じでした。キャンパス内は学生だけでなく子どもたちや家族連れも多くみられ、街の憩いの場になっていることがわかりました。



写真5 ハンドメイドマーケットの様子



写真6 ウィスコンシン大学

6. おわりに

国際学会で研究発表できたことは、大学院 4 年間の中で貴重な経験となりました。発表中は、質問内容が十分に理解できなかつたり、答えたいことが上手く言葉になかつたりと自分の英語を話す力の乏しさを痛感しました。しかし、力不足なりに学会発表を乗り越えられたことは、大きな自信に繋がりました。また、研究活動を日本以外の方々にポスター発表を通して発信できたことは、論文掲載とはまた異なる喜びがあり、大学院生活の向上心に繋がりました。今回の経験で感じた多くのことを心に留め、今後の生活に活かしていきたいです。

最後になりましたが、助成を受理していただきました国際助成委員会の皆様、大学院在学中に貴重な機会を与えていただきました指導教員の芝野真喜雄先生、渡航するにあたりお世話になりました皆様に心から感謝申し上げます。